

令和 6 年度
事業報告書

(自) 令和 6 年 4 月 1 日

(至) 令和 7 年 3 月 31 日

社会福祉法人 道真会

事業展開

I.実施事業

- ① 第1種社会福祉事業
特別養護老人ホーム（広域型・地域密着型小規模）
軽費老人ホーム（ケアハウス）
- ② 第2種社会福祉事業
 - a. 認知症対応型老人共同生活援助事業
 - b. 老人短期入所事業
 - c. 老人デイサービス事業
 - d. 老人居宅介護等事業
 - e. 障害福祉サービス事業
- ③ 公益を目的とする事業
居宅介護支援事業
地域包括支援センター
- ④ 収益を目的とする事業
太陽光発電事業

II.令和6年度の理事会・評議員会の開催状況

1 理事会

- (1) 定数：8名（理事：6名 監事：2名）
- (2) 現任期：令和5年6月14日～令和7年度最初に招集される定時評議員会の終結の時まで
- (3) 現員：8名（理事長：1名 理事：5名 監事：2名）

開催回	開催年月日	決議参加 人数 ／定数	主な議事内容
第1回	令和6年5月28日	4／6	令和5年度事業報告・計算書類の承認について・監事監査報告について・諸規程の改正について・定時評議員会の招集について・理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告
第2回	令和6年10月15日	4／6	理事候補者の選定・評議員会の招集について・役員の不祥事について

第3回	令和7年3月14日	6/6	令和6年度補正予算・令和7年度事業計画・令和7年度収支予算・定款変更について・松山市地域包括支援センターの業務支援システムの更新にかかるリース契約について・役員賠償保険の加入について・諸規程の改正・評議員会の招集について・職務の執行状況の報告
-----	-----------	-----	---

2 評議員会

(1) 定 数 : 7名

(2) 現任期 : 令和3年6月16日～令和7年定時評議員会の終結の時

(3) 現 員 : 7名

開催回	開催年月日	決議参加 人数 ／定数	主な議事内容
第1回	令和6年6月18日	5/7	令和5年度事業報告・計算書類の承認について・監事監査報告について
第2回	令和6年10月24日	6/7	役員の処分について・理事の選任について
第3回	令和7年3月28日	6/7	令和6年度補正予算・令和7年度事業計画・令和7年度収支予算・定款変更について

Ⅲ.法人事業活動状況

① 令和6年度の運営状況について

5類感染症に位置づけられた新型コロナウイルス感染症ですが、以前ほどの猛威を振るうことはなかったものの、インフルエンザと並行し定期的に感染者の発生が見受けられました。

経営面においては、一部在宅サービスについて稼働率が低迷しているものの、施設サービスは概ね高い稼働率の維持が図れたため、前年度廃止した事業所の計上額を考慮するとトータルでの事業活動収入は対前年度比で増加いたしました。

今年度も当期資金収支差額と支払資金残高により、施設建設費にかかる設備資金借入金の一括返済を行いました。結果、資金収支計算書の当期資金収支差額はマイナスとなりましたが、キャッシュフローの改善による収益力および財務体質の強化が図れました。

② 施設関連

近年、大掛かりな修繕工事も複数実施してまいりましたが、屋上からの漏水や給排水管からの漏水、エレベーターのリニューアル工事及び特殊浴槽の不具合など修繕・買い替えを要する設備が年々増加しています。また、全館 LED 照明への切り替えも道半ばであり、対応していかなければならない項目が多数存在しています。以上の内容について、優先度の高い項目から改善を図ってまいります。

高額な費用を要する修繕や将来の建替え費用を念頭に置き、毎年収支差額を確保の上、継続的な自己資金の積み増しを行い、安定した経営基盤の確立を図ってまいります。

③ 人材の確保・定着

介護職員の確保は当法人においても重要な経営課題となっております。年々ハローワークの求人に対する応募数は減少しつつあり、退職者の補充としては派遣会社に依存するというケースが増加しています。2023 年度の介護職員数について介護保険制度が始まって以来で初めて減少に転じたとの厚生労働省の発表がありました。介護人材の確保は深刻な状況となっております。今後は外国人技能実習生の獲得や特定技能制度の活用も必要な施策の一つであると考えています。

IV.社会福祉事業

幸富久荘(特別養護老人ホーム)

平均利用者数は、年末年始に事業所内でインフルエンザのクラスターが発生し、退所者が増加した事等を受け微減となりました。

職員体制は、人員基準は満たしているものの総数が少なく、体調不良や感染症対策に伴う自宅待機で急遽の休みが生じた際には対応が難しい状況が続きました。派遣職員の受入れを行いつつ、職員の定着を図る取組みが引続きの課題です。

利用者の主な退所理由は、医療機関への長期入院及びご逝去です。

年 度	1日あたりの 平均利用者数	新規 入所者	逝去者	4月時点の職員数		
				介護 (常勤)	介護 (非常勤)	看護師
令和4年度	58.1人	36人	17人	26人	5人	5人
令和5年度	58.1人	30人	20人	23人	5人	5人
令和6年度	57.8人	33人	26人	24人	5人	5人

指定短期入所生活介護事業所幸富久荘(ショートステイ)

人員体制は、併設型ショートステイであることから併設事業所である幸富久荘(特別養護老人ホーム)と同様です。

稼働率は、年末頃より併設事業所のインフルエンザのクラスターの影響を受け、ロングショート利用者のサービス切替え等が生じたことから減少しました。

引き続き併設事業所待機者の中よりロングショート利用者を探し、併設事業所と入所の調整を行いながら、稼働率の安定に努めます。

年 度	利用者 延べ人数	1日あたりの 平均利用者数	稼働率	新規 利用者	居宅介護支援事業所	
					幸富久荘	他事業所
令和4年度	2,638人	7.3人	66%	13名	8名	5名
令和5年度	3,068人	8.4人	76%	10名	5名	5名
令和6年度	3,004人	8.2人	74%	12名	7名	5名

指定通所介護事業所 幸富久荘

令和6年度の延べ利用者数は5,884名でした。新規利用者は22名、日々の稼働率は平均55%台を推移し、令和4年度の延べ利用者数及び稼働率は超えることが出来ました。

新規利用者の確保は、居宅介護支援事業所との連携・情報共有を密に行い、事業所の特色やサービス内容の周知に努めた事で一定の成果を上げることができました。しかし、既存利

利用者の体調不良や入院、施設入所等が多く延べ利用者数は伸び悩みました。

令和6年度下期の介護職員人員配置は3.2人/日、利用者受入れは最大26名/日、平均稼働率は70.35%でした。12月～2月は月間利用者数、延べ人数ともに減少しましたが、居宅介護支援事業所への積極的な営業活動の結果、1月～3月中に20件の新規相談を頂き、延べ利用者数は1月の424名から3月には489名まで回復しました。

感染症対策では職員と利用者の1日3回の検温や換気等を徹底したことにより、クラスター発生を未然に防ぐことができました。

年 度	延べ利用者数	平均利用者数	稼働率
令和4年度	5,483 人	18 人	50.2%
令和5年度	6,698 人	22 人	62.0%
令和6年度	5,884 人	19 人	54.5%

指定訪問介護事業所 幸富久荘

① 要介護者延べサービス提供数

年 度	身体介護	身体と生活支援	生 活	合 計
令和4年度	2,246 回	2,031 回	5,446 回	9,723 回
令和5年度	2,675 回	2,042 回	3,394 回	8,111 回
令和6年度	1,587 回	2,112 回	3,133 回	6,832 回

②要支援者延べサービス提供数

年 度	要支援 1	要支援 2	合 計
令和4年度	2,025 回	2,006 回	4,031 回
令和5年度	2,101 回	1,736 回	3,837 回
令和6年度	1,997 回	1,641 回	3,638 回

多くの方が自宅で過ごしたいという思いを抱かれているものの、自宅での介護や看取りは減少しています。入院や施設入所が増えサービス提供数も減少しており、更には契約を行い新規利用が始まるも入院入所等でサービスの継続に繋がらないケースが増加しています。

ヘルパーの高齢化と人員不足が進み労働力の減少は避けられませんが、経験豊富な人材を大切に、貴重な知識と経験のときめ細やかなサービスを提供することで利用者様が在宅生活を快適に過ごして頂けるよう努めます。

③障がい者支援提供数

年 度	派遣回数
令和4年度	359 回
令和5年度	347 回
令和6年度	319 回

障がいサービスは、2件の利用です。今後新規獲得に努めます。

指定居宅介護支援事業所幸富久荘

居宅介護支援事業所として、法令を遵守し、基準に則した運営に取り組みました。

令和 6 年度の年間総計画数は 3,063 件であり、要支援・要介護ともに令和 5 年度とほぼ横ばいでしたが、ケアマネの人数が前年度よりも 1 名減となったことから、ケアマネ 1 人あたりの担当利用者数は 39.2 件(前年度比+6 件)と増加しました。

冬期（R7.1 月～3 月）は利用者数が著しく減少しましたが、過去の傾向では春～秋にかけて回復することから、今後も積極的な新規受入れを行い、安定した事業所運営を目指します。

各種感染症や自然災害が発生した場合においても利用者が継続して居宅介護支援の提供を受けられるよう BCP の策定を行っております。引き続き、質の高いケアマネジメントの提供に努めます。

【要介護】

(単位：件)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
183	192	198	199	195	191	191	191	195	178	180	173	2,266

年 度	年間総計画数	月平均
令和 5 年度	2,267	189
令和 6 年度	2,266	189

【要支援受託】

(単位：件)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
63	64	64	63	65	70	67	67	69	71	70	64	797

年 度	年間総計画数	月平均
令和 5 年度	799	67
令和 6 年度	797	66

年 度	年間総利用者人数	月平均	ケアマネ人数	ケアマネ 1 人当り
令和 5 年度	3,066	256	7.7 人	33.2
令和 6 年度	3,063	255	6.5 人	39.2

ケアハウス幸富久荘

令和 6 年度末における入居者様は 28 名でした。

例年に引き続き、入居者のストレス軽減や健康的な生活を支援しつつ、ご家族等にもご理解とご協力をいただきながらサービス及び運営の質の向上に努めました。

各種感染症に考慮しつつ、年間行事の一部を再開し外出制限の緩和を行いました。しかしながら、外泊の再開については感染症予防の観点から現時点では見合せとしています。

【令和 6 年度末における入居者】

(単位:名)

自立	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2～5	合計
7	10	5	5	1	28

双葉グループ

地域密着型特養 ハビネス双葉

令和 6 年度の稼働率は、上期 100%、下期 99.8%となりました。上期は、利用者の体調が安定しており入退所が発生しなかったことから、新規待機者の獲得、生活相談員の育成に時間を費やすことができました。下期は、ご逝去や医療機関への入院等に伴う退所が頻回に発生したものの、円滑な受入れを行い稼働率維持ができたことから、安定した収入に繋げることができました。

新型コロナウイルス感染症をはじめとする各種感染症に対しては、散発的な罹患者の発生はあったものの、蔓延予防対策に取り組むことで運営への影響を最小限にとどめることができました。高齢者施設としては、引き続き各種感染症に対する慎重な対応が求められますが、利用者およびご家族からは自由な面会や外出の希望が聞かれます。現状に対する理解を求めつつ、流行状況に応じた面会方法の変更など柔軟に対応してまいります。

令和 7 年度も引き続き健全で安定した事業所運営に努めてまいります。

年 度	年間総利用者数	1 日平均	稼働率
令和 4 年度	9,093 人	24.9 人	99.6%
令和 5 年度	9,155 人	25.0 人	100%
令和 6 年度	9,119 人	24.9 人	99.9%

ショートステイ ハビネス双葉

令和 6 年度の稼働率は、上期 83.3%、下期 74.9%となりました。様々な問題の解消及び稼働率上昇に取り組み、一定の成果は得られたものの目標である年間稼働率 80%には僅かに及びませんでした。適切な振り返りや新たな対策が求められますが、令和 7 年 4 月に新任の生活相談員を配置することから当面は人材育成を最優先事項に定め取り組みます。引き続き令和 7 年度も年間稼働率 80%以上を目指します。

人員体制は、本体施設である地域密着型特養ハビネス双葉の併設事業所として人材的なバランスを考慮しつつ、大規模な職員の配置転換を令和 6 年度末より進めています。限られたマンパワーを最大限発揮できる体制作りに努めてまいります。

年 度	年間総利用者数	1 日平均	稼働率
令和 4 年度	1,990 人	5.4 人	54.5%
令和 5 年度	2,452 人	6.7 人	67.1%
令和 6 年度	2,889 人	7.9 人	79.1%

グループホーム セと家

令和 5 年 2 月 1 日開設以降、運営推進会議の開催、愛媛県社会福祉協議会による外部評価の受講等、適切な事業所運営に努めつつ 3 年度が経過しました。

稼働率は、上期 95.9%、下期 97.6%と令和 5 年度より高い水準となりました。年間を通して積極的な営業活動を継続した成果は、入居相談や見学希望件数が令和 5 年度の 2 倍以上という形には現れたものの、常時待機者確保を行うまでには至っておらず今後の課題として認識しています。

人員体制は管理者の統率の下、開設以来離職者は発生していませんが、3 年という節目を迎えることから法人全体の事業所の体制強化、人材育成の観点から職員の異動を念頭に置きつつ柔軟に対応を行います。

年 度	年間総利用者数	1 日平均	稼働率
令和 4 年度	214 人	3.6 人	20.2%
令和 5 年度	5,909 人	16.1 人	89.9%
令和 6 年度	6,361 人	17.4 人	96.8%

※令和 4 年度実績は、令和 5 年 2～3 月の 2 カ月のみとなります。

さや家グループ

地域密着型介護老人福祉施設 ハピネスさや家

令和 6 年度は例年と比べ体調不良の入居者が多く、入院及び退居者が例年の 1.5 倍となりました。待機者確保にも注力しましたが常に確保できている状態を維持するには至らず、年間通して空床が目立ち年間稼働率は 96.4%、(前年度比-0.5%減少)となりました。

課題であった生活相談員の力量不足は、2 人体制とした上で業務改善を行いました。施設の特徴や活動内容の周知活動に取り組んだ結果、医療機関や居宅介護支援事業所からの相談件数は増加しました。

年度を通じて 5 名の退職(内、2 名はやむを得ない事情)がありました。ハローワークを通じて求人を行っていますが、1 年以上応募がない状態です。不足する人員は、派遣職員で対応しています。新たに新卒者 1 名(福祉課学生)を採用しました。

年 度	年間総利用者数	1 日平均	稼働率
令和 4 年度	10,309 人	28.2 人	97.4%
令和 5 年度	10,283 人	28.1 人	97.1%
令和 6 年度	10,201 人	27.9 人	96.4%

グループホームさわや家

令和 6 年度は、入居者 5 名、退居者 6 名と例年と比べ大きな入居者の入れ替わりは発生しませんでした。入院をされた利用者は延べ 79 名であり、前年度の 241 名から約 1/3 に圧縮することができました。

令和 6 年 9 月より、令和 6 年度介護報酬改定により新設された「協力医療機関連携加算」の算定を開始し、収益率の向上に努めました。

人員体制は、1 名退職しましたが、その他の職員は定着しています。特定のユニットにおいて、入居者の入れ替わりに伴う記録物の作成遅れに伴い時間外労働が増加傾向にあります。今後日中の活動内容を見直し、業務改善を図ります。

年 度	年間総利用者数	1 日平均	稼働率
令和 4 年度	6,482 人	17.8 人	98.7%
令和 5 年度	6,407 人	17.5 人	97.3%
令和 6 年度	6,440 人	17.6 人	98.0%

グループホームはぶやま

令和 6 年度は、入居者 3 名、退居者 2 名と前年度と比べ入居者の入れ替わりが少なく、入院をされた利用者も延べ 35 名と前年度の 245 名から大幅に圧縮することができました。

令和 6 年 9 月より、令和 6 年度介護報酬改定により新設された「協力医療機関連携加算」の算定を開始し、収益率の向上に努めました。

事業所の課題は、対外業務の属人化を受けての特定職員への時間外労働の集中、従業員の高齢化(1 名退職、1 名働き方の変更)等を受けた労働生産性の低下です。後進の育成、組織の若返りは急務を要します。

年 度	年間総入所者数	1 日平均	稼働率
令和 4 年度	6,359 人	17.4 人	96.8%
令和 5 年度	6,267 人	17.1 人	95.1%
令和 6 年度	6,546 人	17.9 人	99.6%

松山市地域包括支援センター味酒・清水

包括的支援事業(地域包括支援センター運営業務)

松山市から受託している地域包括支援センター運営業務(令和4年度～6年度)は、今年度が最終年度となりました。運営業務にあたっては、前年度に引き続き公平・中立的な視点に立ち、圏域内の住民の状況把握や支援を必要とする高齢者やその家族に対して丁寧で適切な対応を心がけました。

今年度は感染症予防に注意を払いながら、三職種(主任介護支援専門員・保健師・社会福祉士)が単独または連携し、積極的に地域へ出向いて周知・啓発活動を行いました。

主要業務である総合相談支援業務は、昨年度はコロナ禍の影響もあり、相談件数が微減(-65件)となりましたが、今年度は2,320件(+298件)と大幅に増加しました。今後もセンターの認知度向上に向けた広報活動に注力していきます。また、高齢者やその家族からの相談に対しては、窓口対応だけでなく電話や自宅訪問を実施するなど、利用者の状況に応じて迅速かつ丁寧な相談対応に取り組みました。

また、今年度は令和7年度～9年度の地域包括支援センター味酒・清水の運営業務委託の募集が公募型プロポーザル方式により行われ、審査の結果、引き続き当法人が運営業務を受託することになりました。

〈総合相談支援件数〉

(単位：件)

年 度	新 規	継 続	計
令和4年度	472	1,615	2,087
令和5年度	527	1,495	2,022
令和6年度	611	1,709	2,320

【主任介護支援専門員】

圏域の居宅介護支援事業所を対象とした対面式の研修会やオンライン研修会、連絡会を定期的に開催しました。

10月には、近隣の地域包括支援センターとの合同企画により、民生児童委員と介護支援専門員との交流会を開催し、サービス事業所の紹介を行いました。

【保健師】

高齢化率の高い市営団地の住民を対象に、出前講座(介護予防教室・家族介護教室)を5回開催しました。最終回には、まつイチ体操体験会を実施し、参加された方のうち3名がまつイチ体操の自主グループ結成を検討されています。

また、圏域の集会所(サロン)に出向いて出前講座の啓発を行い、7回の介護予防教室と味酒・清水各地区1回の家族介護教室を開催しました。

その他、松山市保険給付・年金課主催の「高齢者ここから元気教室」において、国保健診にてフレイルの可能性が見られた圏域の高齢者に対して、松山市との協働によりフレイル予防や生活習慣病の重症化予防のための健康教室を実施しました。

【社会福祉士】

圏域のサービス事業所を対象に、研修会(集合方式)を2回実施しました。研修は、講演だけではなくグループワークも取り込み、より理解が深まるよう工夫を凝らしました。

また、近年拡大している消費者被害を防止するため、地域への出前講座や各種団体への周知・啓発活動に力を入れました。

相談業務では、地域住民や他の機関からの相談にも対応し、虐待や困難ケース、成年後見制度の支援に関して、基幹型地域包括支援センターや居宅介護支援事業所のケアマネジャーと連携し、問題解決に向け取り組みました。

〈活動実績〉

部 門	活 動 内 容	開催数
主任介護 支援専門員	研修会・事例検討会・連絡会 民生児童委員と介護支援専門員との交流会	5 回
保健師	健康教室（介護予防教室 16 回・家族介護教室 2 回） フレイル予防事業 3 回、福祉講座（スマホ教室） 圏域事業所向け連絡会、シニアライフ講座	24 回
社会福祉士	虐待・困難ケースの個別支援会議 10 件 法定後見制度申し立て支援 6 件 圏域事業所向け研修会 2 回	18 件/回

介護予防支援事業

前年度に引き続き、センター直営でのプラン件数は順調に増加し、前年比 463 件 (9.8%) の増加となりました。総プラン数（直営＋外部委託）は 89 件の増加にとどまりましたが、外部委託件数の減少（-374 件）によりプラン作成委託料が減少し、実質収入は 25,414,740 円と前年比 2,045,660 円と大幅な増収となりました。その結果、今年度の介護予防支援事業は、287,521 円の収益となりました。

センターが担当する利用者に対しては、今後も住み慣れた地域での生活が続けられるよう、定期的に訪問してモニタリングを行い支援計画に反映するなど、丁寧かつ適切な支援を継続して心身状態の悪化を防ぐよう心がけます。

〈介護予防給付管理数〉

(単位：件)

年 度	センター直営		外部委託		計	
	プラン数	うち新規	プラン数	うち新規	プラン数	うち新規
令和4年度	4,548	92	4,637	148	9,185	240
令和5年度	4,732	156	4,379	146	9,111	302
令和6年度	5,195	130	4,005	121	9,200	251

〈実質収入額〉

(単位：円)

年 度	プラン作成料収入	外部委託料支払額	差引実質収入額
令和４年度	41,178,300	18,684,800	22,493,500
令和５年度	40,917,180	17,548,100	23,369,080
令和６年度	41,530,800	16,166,060	25,414,740

〈事業収支〉

(単位：円)

年 度	事業費 (うち人件費)	プラン作成料 収 入	その他収入	差引損益
令和４年度	41,498,176 (19,881,713)	41,178,300	319,876	119,984
令和５年度	41,396,332 (21,574,912)	40,917,180	296,180	▲182,972
令和６年度	41,532,156 (22,228,075)	41,530,800	288,877	287,521

V.収益事業

太陽光発電事業

事業から生じた収益は、社会福祉事業にあててを目的とする。

収支について、6,448 千円の収入に対して減価償却費含み 4,769 千円の費用となり、当期活動増減差額としましては 1,679 千円となりました。